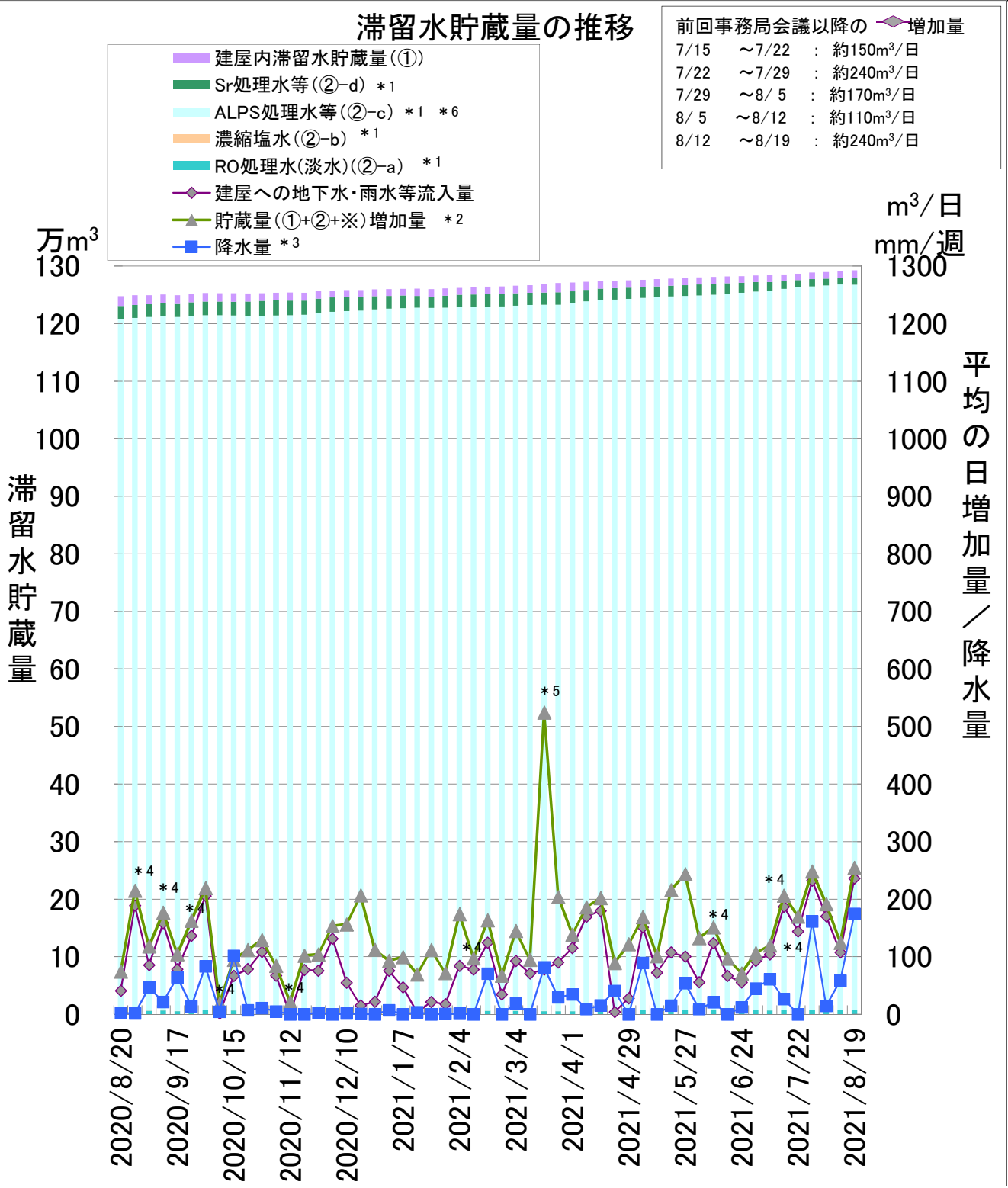


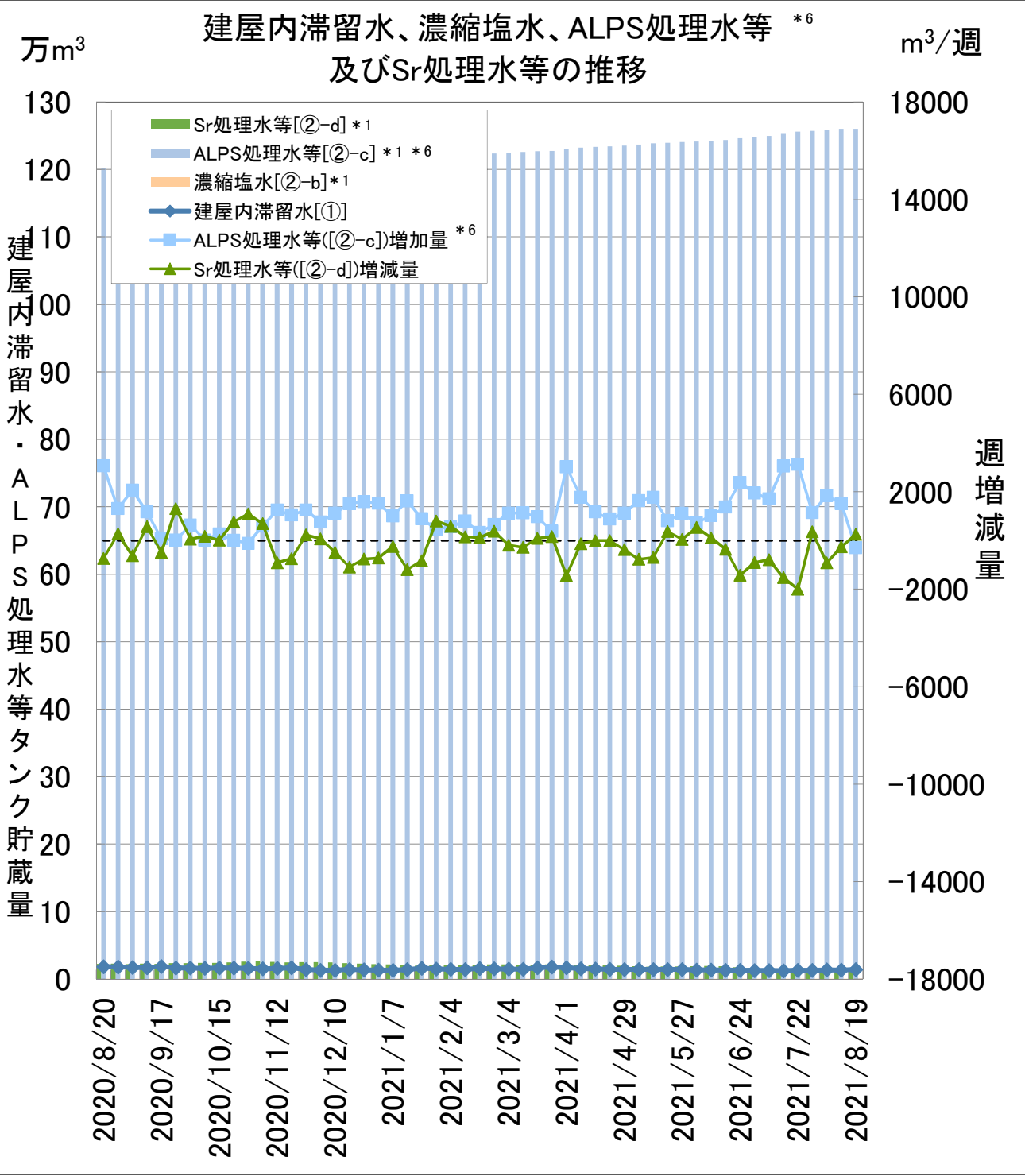
滞留水の貯蔵状況の推移



①: 建屋内滞留水貯蔵量(1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))
②: 1～4号機タンク貯蔵量〔(②-aRO処理水(淡水))+(②-b濃縮塩水)+(②-cALPS処理水等*6)+(②-dSr処理水等)〕

※: タンク底部から水位計0%までの水量 (DS)

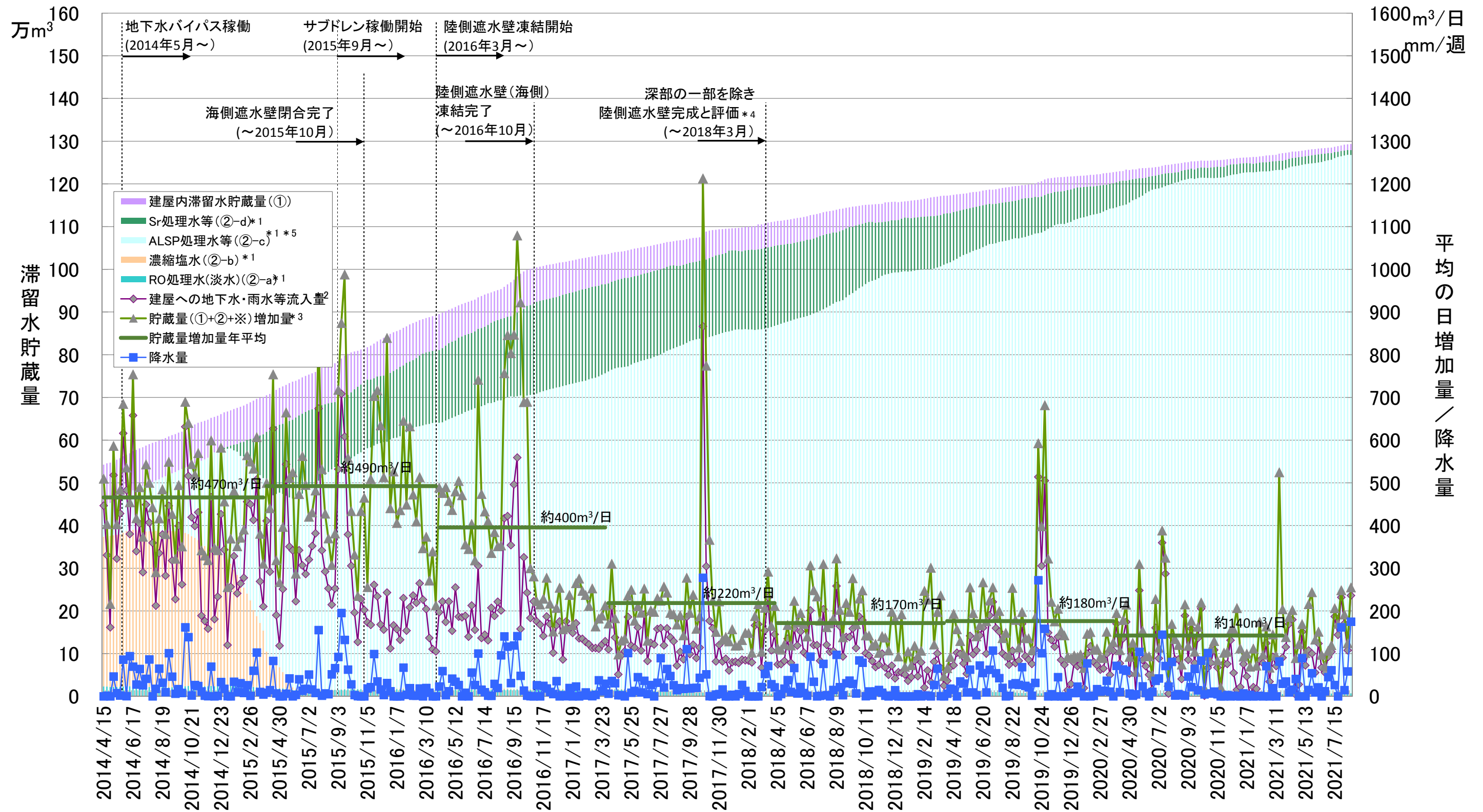
* 1: 水位計0%以上の水量
* 2: 貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)
〔(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)〕
* 3: 2018/12/13より浪江地点の降水量から1F構内の降水量に変更。
* 4: 建屋内滞留水の水位低下の影響で、評価上、建屋への地下水・雨水等流入量が一時的に変動したものと推定。(8/20～27.9/3～10.9/17～24.10/1～8.11/12-19.2021/2/4～2/11.6/3～6/10.7/8～7/22)
* 5: 2021/3/18廃炉作業に伴う建屋への移送により貯蔵量が増加。
(移送量の主な内訳は①タンク堰内の滞留水(物揚場排水路から移送した水)をプロセス主建屋へ移送: 約390m³/日、②タンク堰内の滞留水(物揚場排水路から移送した水)を高温焼却建屋へ移送: 約10m³/日、③3号増設FSTRから3号廃棄物処理建屋へ移送: 10m³/日、他)
* 6: 多核種除去設備等の処理水の表記について、国のALPS処理水の定義変更に伴い、表記を見直し(2021/4/27)



多核種除去設備等の稼働状況			
設備	期間処理水 ^{注1,4)}		定格処理量
	[m3/週] ^{注2)}	[m3/4週]	
既設多核種除去設備	0	582	750以上
増設多核種除去設備	501	3,796	750以上
高性能多核種除去設備	0	0	500以上
高性能 検証試験装置	0	0	50
合計	501	4,378	

注1) 処理量は全て出口積算流量計から算出しており、薬液注入量を含む。
注2) 処理量の内訳はRO濃縮塩水処理量0m³、Sr処理水処理量474m³、処理水処理量0m³、薬液注入量他27m³注3)。
注3) 処理水を用いて粉体を溶かし生成している薬液量(11m³)を含む。
注4) 処理水増加量を基にした算出方法から、設備の出口積算流量計を基にした算出方法に、2020年11月26日より見直し。

滞留水の貯蔵状況の推移(長期グラフ)



①: 建屋内滞留水貯蔵量(1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))

②: 1～4号機タンク貯蔵量

*5

(〔②-aRO処理水(淡水)〕+〔②-b濃縮塩水〕+〔②-cALSP処理水等〕+〔②-dSr処理水等〕)

※: タンク底部から水位計0%までの水量(DS)

*1: 水位計0%以上の水量

*2: 貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)

〔(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)〕

*3: 2018/12/6まで浪江地点の降水量を使用していたが、2018/12/13より1F構内の降水量に変更

*4: 深部未凍結箇所3箇所については、2018年9月までに凍結完了

*5: 多核種除去設備等の処理水の表記について、国のALPS処理水の定義変更に伴い、表記を見直し(2021/4/27)